

## 第4号 かめい歯科通信



こんにちは、インフォームドカウンセラーの枝元です。  
桃の節句も間近となり、長かった冬も終わろうとしています、お元気でお過ごしでしょうか。  
さて、今回もむし歯についての情報をお届けします。ぜひご参考にしてくださいね。

### 意外に知らない!?虫歯の基礎知識

#### ①神経を取ると『寿命』が短くなる！

むし歯が進行すると「神経」を取らなければなりません。  
「神経を取ればもうむし歯にならない！」そんな誤解もあるようですが、これは大きな間違いです。歯は、神経がなくてもむし歯になりますし、痛くないといってもそれは、「歯」だけのはなし。むし歯が進行すると歯を支える「骨」にまで細菌が到達し、顎骨が激しい痛みを引き起こすこともあるのです。  
また「神経」は単に痛みを伝達するだけでなく、実は歯に「栄養」も運んでいます。つまり神経を取ってしまうと歯がもろくなり、その寿命も短くなってしまいます。



#### ②治療したところほど『再発』しやすい！

「つめもの」や「かぶせもの」が装着され、「治療が終わってもう安心だ」と思われる方も少なくないでしょう。しかし！実は、治療した箇所は以前よりもさらにむし歯になりやすい環境になっています。その理由は「つめもの」や「かぶせもの」の隙間。もちろん、これらはとても精度が高く作られています、長年の使用と共に少しずつ隙間ができてしまいます。  
しかも1度むし歯になったということは、その原因となるプラークが溜まりやすい場所でもあります。ですので、治療したところほどしっかりケアする必要があります。



#### ③『削らなくても治せる』むし歯がある

正確には「むし歯」ではなく「初期むし歯」と言われるものです。歯の表面に白い斑点が見られたり、茶色っぽく変色しているだけで、痛みはまったくありませんが、そのまま進行すると治療が必要なむし歯になってしまいます。定期的な歯科検診で早期発見できれば、治療せずに適切なケアによって進行を防ぐことができます。



#### ★実はね！

むし歯は「痛くなってから」では、神経を取ったり、つめもの・かぶせものを外しての大掛かりな再治療などが必要になってしまいます。  
歯を守るには定期的なチェックが欠かせません。ぜひ定期健診にお越しください！

## 歯科治療で使用する金属がアレルギーを引き起こすってご存知ですか？



歯科治療で使用する金属は水分のあるところで金属イオンという小さな物質となって溶け出しています。この金属イオンが体の免疫細胞と過剰に反応してアレルギーとなります。金属アレルギーは花粉症のようにある日突然起こります。

### 金属アレルギーの症状について

お口の中に入っている金属に接触している頬や舌が赤くなったり、白くなったりして炎症が起こります。すぐに出る場合もあれば時間が経ってから出る場合もありますし、全身に出る場合もあり、特に手や足の甲に水泡状の皮膚炎が出ることがあります。

症状は、何となくおかしいなというくらいの軽い方からアトピー性皮膚炎のように全身に出て重症の方までいるそうです。

### 見た目は似ているけど・・・

現在、保険治療で使われている主な金属は、金銀パラジウム合金と銀合金です。これらの金属は、合金のためいろいろな金属が含まれています。そのため4～5年くらい経つと錆びてしまい、金属イオンが多く出てしまう結果、歯や歯ぐきに溶け出して黒くなってきます。

そして現在ではほとんどの歯科医院で使われていませんが、『アマルガム』という多量の水銀を含んだ金属は長年歯科治療用いられてきた材料ですが、お口の中で劣化、腐食しやすい傾向があるため全身の健康に悪影響を及ぼすおそれがあると言われていました。

**特に1980年以降のアマルガムの詰め物は要注意です。**

アマルガムの寿命を延ばすとして最も多く使われていた銅含有量の多い新タイプのアマルガムは、旧型に比べて50倍も多くの水銀を放出します。

皆さんのお口の中にある昔の詰め物は、アマルガムかもしれませんね。

**お口の健康を守るためにも、より安全な材料へ代えることをお勧めいたします。  
ぜひ一度、ご相談ください。**

## まずは予防！唾液検査をお勧めします



### 唾液検査をお勧めする理由

「唾液検査を本当に調べた方が良いかな？」と疑問に思っている方も多いのではないのでしょうか。むし歯や歯周病になる原因は人それぞれです。原因が違えば予防法も違います。

唾液検査は自分の唾液を調べることで、むし歯や歯周病になる原因がわかり、口腔ケアのプロである歯科衛生士から、自分にとって効果的な予防法アドバイスを受けることができます。

### お勧めの方

1. 自分でむし歯が多いと感じている方、口腔ケアを行っているのになかなかむし歯が減らない方。
2. まだむし歯になっていないお子様。  
これからむし歯にならないためにどうすればよいのか、具体的な対策を練ることができます。
3. 口臭が気になる方やドライマウスの心配がある方。  
唾液の分泌量と口臭はとても深い関係にあります。

検査を受けることで、今まで気付かなかった様々な自分のお口の状態を知ることができます。そして検査によって得た情報を、ご自身と歯科医院が共有することでむし歯の繰り返しを防ぎ、予防効果の高い治療計画を立てることが出来ますよ。